

小鹿野町教育委員会

1 研究主題

幼・保・小の連携体制の研究
～学びと育ちの連続性をとらえて～

2 ねらい

町内すべての幼稚園・保育所・小学校を対象とし、滑らかな接続を図るため、子どもたちの学びと育ちの連続性について研究し、連携体制について研究を深める。

3 本町における各学校等の設置状況（平成21年4月1日現在）

	幼稚園			保育所			小学校
	市町村立	私立	合計	市町村立	私立	合計	市町村立
施設数	3	0	3	2	1	3	4
幼児・児童数	172	0	172	141	69	210	707
教職員数	21	0	21	26	14	40	67

4 幼・保・小連携のための組織

(1) 幼・保・小連絡会（名称「小鹿野町幼・保・小連絡会」）

組織

所 属	対象教員数	備 考
小鹿野町立小鹿野小学校	1年担任2名	第1ブロック
小鹿野町立長若小学校	1年担任1名	
小鹿野町立小鹿野幼稚園	6歳児担任2名	
小鹿野町立小鹿野保育所	保育士2名	
ひまわり保育園	保育士2名	
小鹿野町立三田川小学校	1年担任1名	第2ブロック
小鹿野町立両神小学校	1年担任1名	
小鹿野町立三田川幼稚園	教諭3名	
小鹿野町立両神幼稚園	教諭3名	
小鹿野町立両神保育所	保育士2名	

(2) 連携体制のイメージ図

小鹿野町 幼・保・小連携体制イメージ



【期待される効果】

- 子ども ▶ 生活の変化に適応、小学校生活へのあこがれや期待
- 教職員 ▶ 教育内容の相互理解、連携を意識した指導方法の工夫

【小学校での教育】
遊び的な要素を取り入れた学習
(生活科等)

**小1ギャップ 段差を低くする
スタートカリキュラムの工夫**

【保育所・幼稚園での教育】
学習の芽生え
道徳性の芽生え
生活習慣の芽生え
をはぐくみ、
小学校を意識した活動
(協同的な遊び・落ち着いて話を聞く等)

町づくりは人づくり

5 事業の年間計画

月 日	事業内容	場 所	対 象
5月25日	第1回小鹿野町幼児教育振興協議会 ・趣旨説明 事業計画検討	町役場両神庁舎 各学校	振興協議会委員
6月～7月	各ブロック（小学校区）交流 ・授業参観 情報交換会 連携会議		幼・保・小職員
8月17日	第1回 幼・保・小連絡会 全体会 「これまでの連携について」 「幼保小連携の意義」 「三田川幼・小」の取組紹介 分科会 ブロックごと 視点に沿っての協議 情報交換・	町役場両神庁舎	幼・保・小職員
9月 ～12月	各小学校区（ブロック）による交流 運動会 職員の交流 子どもの交流 委員会の交流 授業参観 情報交換会	各学校	幼・保・小職員
1月19日	第2回小鹿野町幼児教育振興協議会・幼・保・小連絡会合同研修会 分科会 「指導要録記入・幼・保・小連携サポートシートについて」 情報交換 全体会 大妻女子大学 酒井 朗教授 講義 協議 質疑 「これからの連携の在り方について」	町役場両神庁舎	幼・保・小職員 振興協議会委員
2月26日	第3回小鹿野町幼児教育振興協議会 ・成果と課題、次年度計画検討	町役場両神庁舎 各学校	振興協議会委員
3月	各小学校区（ブロック）による交流 情報交換会		幼・保・小職員

6 研究の具体的な取組

(1) 幼児教育振興協議会

組織

幼稚園代表、公立保育所代表、私立保育園代表、小学校代表、幼・保・小連携アドバイザー、学校教育課、住民課で構成した幼児教育振興協議会を設立した。

(2) 授業参観・保育参観と研究協議

各小学校と幼稚園、保育所において、生活科の時間や学校行事、委員会活動、授業参観を実施し、子どもの交流、職員の交流を図った。



幼・保・小連携アドバイザーから助言

(3) 幼・保・小教職員の連絡会

実務的な部分で日頃から幼児教育にかかわっている教職員を中心に、分科会で現在抱えている課題について協議し、全体会の中で共通理解を深めた。

第1回幼・保・小連絡会では、育てたい力として、
①自分の思いを言葉で伝えること（コミュニケーション能力）
②自分の身の回りのことは自分ですること
③人の話をしっかりと聞くこと が確認された。

第2回幼・保・小連絡会では、分科会で連携サポートシート、指導要録の記入についての協議、全体会で、大妻女子大学家政学部児童学科酒井朗教授を招いての講義、研究協議が行われた。



大妻女子大学 酒井朗教授の講義

(4) 小学校入学に当たっての引継ぎ

小学校の教職員が幼稚園や保育所を訪問し、保育参観等とおして、就学予定者の情報交換を行っている。

また、幼・保・小連絡会で指導要録や保育要録について研修会を開き、有効な活用につなげるとともに、必要に応じサポートシートを活用することで、きめ細かな引継ぎができるようにした。

幼保小連携 サポートシート		取り扱い注意		(気になる子のための)	
数学前所属		氏名		男・女	
学年		平成		年 月 日	
項目	no	子どもの気になる様子	かなりある	ややある	子どもの実態がみられた 効果的な取組・提案が付け (小学校での指導の参考になる様なことがあれば記入する) *内容によっては、情報交換会のときに、口頭で伝えても良い
言葉	1	先生が話している途中で、思いついたらすぐに話してしまう。			
	2	気に入らないことがあると、すぐに激しい行動(大声でどなるなど)に出る。			
	3	相手のことばや表情を理解することが難しかったり、何を言われているのかが理解できない。			
	4	人の話を落ち着いて聞いていない。			
	5				
行動	1	ルールに沿って活動できず、自分のルールをつつてしまう。			
	2	座っているべきときに、席を離れてしまうことがよくある。			
	3	しまうことが苦手で、いつも、机の上やまわりには物が散らしている。			
	4	奇声を発することがある。			
	5	こだわりの行動があり、自分の世界に入る。			
人間関係	1	相手の状態や気持ちを考えず、自分は悪くないと言い張って、話を聞かない。			
	2	友だちと遊べなくて、一人でボツンとしている。			
	3	わがままだったり、遊びのルールが守れなかったりして、友だちとのトラブルが多い。			
	4				
	5				

7 成果と課題

(1) 成果

- ・ 町内すべての幼稚園・保育所の教職員間で、情報交換が密に行われた。
- ・ 就学前、就学後の様子について課題の共通理解が図れた。
- ・ 小学生においては、幼児との交流を通して、一人ひとりへの思いやりの気持ちが見られ、主体的に活動に向かう姿が見られた。
- ・ 園児においては、小学校へのあこがれや期待が増している。
- ・ 職員同士の交流で、より良い関係が築かれ、校種間の交流が活発になった。
- ・ 自主的、意欲的な幼稚園・保育所(園)の拡大合同研修会が実施でき、横の連携も図れた。

(2) 課題

- ・ 小学校においてはスタートカリキュラムを意識した教育課程の編成を図ること、幼稚園、保育所(園)については小学校低学年の活動を意識した保育内容の充実を図ることが必要である。
- ・ 研修会や交流活動を、現在行っている活動に結びつけ、時間の確保を図る。
- ・ 授業参観、子どもや職員の交流が実施しやすいように、校内での幼・保・小連携推進の担当者を決め、継続性がもてるようにする。
- ・ 指導要録、幼・保・小連携サポートシートの有効な活用を図る。